

### feature interview

# MARK RONSON

2003年11月の来日プレイでは、オーディエンスを最高潮に湧かせ、貴重なMCまで披露したインパクトは未だ記憶に新しい“MARK RONSON”。2月25日(金)に待望の再来日が決定した彼の近況を直撃インタビュー。

#### ■最近の活動について教えてください。

ここ何ヶ月かは、Rhymefestのアルバムの制作をしているよ。Rhymefestは、僕自身のレーベルであるALLIDO RECORDS (ディストリビューションはJ RECORDS) 所属のラッパーなんだけど、彼は本当に才能のあるラッパーで、彼の新しいアルバムは、僕、Kanye West、NO ID、9th wonderなんかトラックを提供している。それから、イギリスのKISS100というラジオで番組をやっているよ。あと、先日亡くなったODBがこの世を去る前にトラックを提供したし、Jay-Zのドキュメンタリー“Fade to Black”と、それについてくるミックステープにも参加している。DJに関しては、Q-Tip、Just Blaze、Blu Jemzと一緒にやっている“Authentic Shit”という僕のパーティーで回しているよ。

#### ■そのミックステープについて教えてくださいませんか？

このミックステープは、僕自身もとても誇りに思っているものの1つだよ。The Fade to Blackという同じタイトルのJay-Zのドキュメンタリーフィルムの音楽を担当したんだけど、その後Jay-Zにその映画の特典としてつけるためのミックステープを作って欲しいって頼まれたんだ。JAY-Zみたいな偉大なアーティストの為に作るものだから、最高の作品にしないといけないと思って、曲選びからミックステープまで慎重にそして大事に仕上げたよ。今までにもRockafellaやD'Angeloとかに頼まれてミックステープを作った事はあるんだけど、これは自分的にも今までの作品とはまた別の意味を持つものだし、ストリートレベルでも僕の手掛けたミックステープの中では一番重要な作品と言えるんじゃないかな。

#### ■最近のNew YorkでのDJ活動について教えてください。

僕がQ-Tip、Blu Jemzと一緒に去年の夏からTable 50という場所でパーティーを始めただけど、ここ最近のNew Yorkのクラブシーンでは一番面白いパーティーだと思うよ。そのパーティーではStevie WonderからSnoop Dogg、Donal BlackmanからBlack Moonまで本当に色々な曲をプレイしてるんだけど、かかる曲は全て“Authentic Shit”、つまり『本物』の音楽しかかけない。パーティーの名前もだから“Authentic Shit”にしたんだ。今はQ-Tipが抜けてしまったんだけど、代わりにJust Blazeが回してくれる事になった。すごく楽しいパーティーだよ。

#### ■初のアルバムをリリースしてから、約1年が経ちましたが、その後アルバムを出した事で何か変化はありましたか？

アルバムをリリースして、色々な所にプロモーションの為にツアーで行ったんだけど、行く先々で皆が自分の曲を知ってくれたのは嬉しかったね。それ以外に特に変わった事はないかな。

#### ■2003年にHARLEMで行われたリリースパーティーは凄く盛り上がりましたね。

そうだね。お客さんも信じられないくらい盛り上がり過ぎてくれて、僕自身も凄く楽しかった。普段絶対マイクで喋ったりしない僕がMCまでしてたんだから、どれくらい楽しかったかって

いうのは想像出来るでしょ？ あれは、今までに僕がプレイした数々のイベントの中でもトップに入るくらい素晴らしい夜だったよ。

#### ■その時、ロンドンに行くという話をしていたのを覚えているんですが、ロンドンのクラブシーンはどうですか？

ロンドンは最高だね。僕のお気に入りの国の1つだよ。ロンドンのクラブシーンでは、少なくともコマーシャルなレベルでの話だけど、Hip Hopがまだ新しく新鮮な音楽として存在しているんだ。だから、他とはまた違ったリアクションが見られるし、凄く面白いよ。それに皆、ロックからレアグループまで、色々なジャンルの音楽をよく知っているしね。

#### ■世界中のクラブでプレイした経験をお持ちだと思いますが、その中で一番のお気に入りはどこですか？

ヨーロッパのクラブシーンも面白いね。スイスとかパリでやったパーティーも楽しかった。でもやっぱり一番好きなのは、今のところイギリスと日本かな。

#### ■最近レコードではなく、CDJやファイナルカットを使用するDJが増えていて、JUST BLAZEがCDJ、DJ CASH MONEYはファイナルカットを使っていると思うんですが、あなたの意見は？

技術が進歩して、新しいものが沢山出てきているけれど、結局一番重要なのはそれを『どう』使うか、だと思うね。Just BlazeもCash Moneyも、2人ともとても才能のあるDJで、彼らが仮にオモチャのレコードプレイヤーでDJしたって、彼らの素晴らしいさは変わらないと思うしね。Just Blazeは今一緒にやっている木曜のパーティーでCDJを使っているんだけど、僕はほとんどアナログを使う。でもやりづらいつつ、問題も全くないしね。テクノロジーがどんどん発展して、それがDJにとってどんな形でも助けになるなら、それは良い事だと思うし、喜ぶべき事だと思うよ。僕は、たまたまレコードの方がやりやすいっていうだけの事。(ただ、10年もあの重いレコードケースを運んでいるから、僕の腰は相当ガタがきてるけど...)

#### ■今New Yorkで流行っているものは何かありますか？

最近BATHING APEのお店がやっとNew Yorkにオープンして、みんな大騒ぎしてるよ。Milcrateもまだまだアツいし、あとNom de Guerre、そして勿論僕の妹の店、C. RONSONもね。彼女のお店は、2月に東京にもオープンする予定だよ。

#### ■最近お気に入りのアーティストは居ますか？

新しいCommonの曲を聞いたけど、本当にヤバかったね。Saigonのアルバムも多分凄く良いものになってるんじゃないかな。あとはやっぱりALLIDO RECORDSからのリリースをチェックして欲しいな。最初にも話したけど、Rhymefestのアルバムも今年の夏にリリースされるし、その後はオーストラリア出身のソウルシ



ンガー Daniel Merriweather の作品もリリースする予定になってる。どちらもみんなの期待を裏切らない素晴らしい内容になっている事は間違いないよ。

#### ■次のご自身のアルバムをリリースする予定はありますか？ 待ち望んでいるファンも多いと思いますが。

とりあえず先に、プロモーション的なミックステープをリリースして、その後自分のオリジナル作品を収録したアルバムを出す予定だよ。待っててくれるファンが居るのは本当に嬉しいし、そのみんなが待ってくれた時間と期待を裏切らない作品を作るつもりだから、楽しみに待っていて欲しい。

#### ■あなたが音楽によって世の中に伝えたいメッセージはなんですか？

僕が表現したい事は、素晴らしい音楽と素晴らしいビート、そしてオリジナリティ。そして、僕と一緒に仕事をするアーティスト達は全員、そのエレメント全てを持ち合わせている。

#### ■2月25日のHARLEM “The Finest”での来日プレイが決定しましたが。

いつも通り、楽しいパーティーになる事は間違いないよ。僕の得意な、ジャンルを越えたオリジナルな選曲と、あとは沢山のサプライズがあるから期待して欲しいな。前回のパーティー以上に盛り上げるから、絶対遊びにきてよ。

#### “Mark's All time favorite”

- DJ -  
1 : Clark Kent / 2 : AM / 3 : Kid Capri
- Producers -  
1 : Premier / 2 : Just Blaze / 3 : Erick Sermon
- MCs -  
1 : Rakim / 2 : JAY-Z / 3 : Rhymefest
- Songs -  
1 : Reminisce (Pete Rock & CL Smooth) /  
2 : Paranoid Android (Radiohead) /  
3 : Line Em Up (Freeway)
- Albums -  
1 : When the Pawn... (Fiona Apple) /  
2 : Midnight Marauders (A Tribe Called Quest) /  
3 : Blueprint (JAY-Z)

#### “Mark Ronson” Bio Graphy

ここ数年の間に、Mark Ronsonは彼の持つ全てのスキルと音楽的知識をもってその才能を世に知らしめた。そして彼のプレイするクラブ/パーティーに顔を出す人々にとってその夜は忘れられない夜になる事は100%保証されている。時にはHIP HOPのオーディエンスを80'sの選曲で、ファッションショーの観衆をHIP HOPでと、どんなパーティー、どんな客層でも心を通わせ、彼の持つDeepでSexyなVibesと、DJとしての才能で、確実にフロアをロックし、もちろん業界からの評価も高く、伝説的DJ、Stretch ArmstrongやFunkmaster Flexはもちろん、Tommy HilfigerやBetsy Jonson一流デザイナーも彼のファンとして名を連ねる。Mark Ronsonはニューヨークのミュージックシーンに欠かせない人物として定着している。

またDJとしてだけでなく、彼はトップクラスのプロデューサーとしても知られる。24才の若さにして当時Cheeba Soundsに所属していたNikka Costaのプロデュースも手掛けた。その画期的なNikka Costaのアルバムにおける彼の素晴らしいプロダクション・ワークがレコードレーベルのA&Rのエグゼクティブたちの目に留まり、2年前の2003年、エレクトラから初のアルバムをリリース。そのアルバムのプロダクションのレベルの高さ、またアルバムに参加しているアーティストのラインナップの豪華さとその画期的な組み合わせで多くの話題と人気を集め、アルバムは全世界で大成功を収めた。

「ラッキーなDJがプロデューサーの仕事を手に入れたとしても、一枚のアルバムに自分のトラックを1~2曲入れるのがせいぜいだ。」と彼は言う。「僕はこんなに若くして、しかも、まだ僕のキャリアも始まったばかりだっけ言うのに、フルアルバムで自分の表現の場所を与えられるなんて、本当にラッキーどころじゃないよね。信じられないし、すごく感謝してるよ。だからこそ、このアルバムでは音楽の持ついろんな顔と、僕の大好きな雰囲気とかすべてを表現したいと思ってる。」

24才にして結んだ初のレコード契約、自身のアルバムのリリース、そして彼がこなしてきたパーティーの数々とそれに対する賞賛。にもかかわらず、彼は今でもハングリー精神を忘れてはいない。クラブでの自分のプレイで観客が手を宙にかげのを見る度に、いまだ興奮でぞくぞくするような思いをする彼は言う。

「音楽が、この世の中で最も美しいもの、そしてセクシーなものである事実は変わっていないよ。この世の中に音楽以外のものであれだけのVibesとPowerを瞬時に与えられるものなんてないと思わないか？ たったの一曲でDJもオーディエンスも、クラブにいる人みんなの心がひとつになって、みんなが幸せな気分になる。その時間ってほんの瞬間かも知れない。でもそれって凄いなって？」